

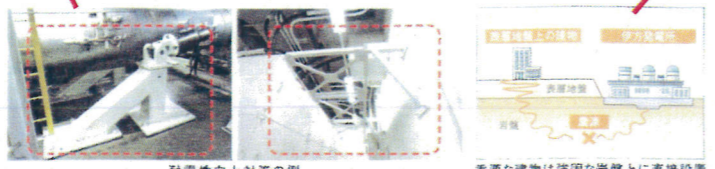
伊方原子力発電所の危うさ

●福島第一原発で配管破断が起こっている。伊方でも破断すると放射能汚染につながる。

●4月14日の熊本地震で重力加速度を大きく超える1399ガルという縦揺れが記録されていた。伊方でも起こりうる。


伊方発電所の安全対策

地震対策



- 南海トラフの巨大地震や中央構造線の断層による地震などを詳細に調査した上で、最大規模の地震の揺れ(650ガルほか)を想定し、耐震性の向上対策を実施しています。
- 重要な建物は強固な岩盤上に設置しているため、地震の揺れは軟らかい地盤上の建物に比べ1/2~1/3程度となります。


冷却手段の確保



原子炉や使用済燃料を「冷やし続ける」ための電源やポンプを多重化・多様化しました。


- 空冷式非常用発電装置や複数の電源車を分散配備
- 配電線を海拔95mの変電所から2ルート敷設
- 非常時に原子炉等に注水するため、複数の中型ポンプ車や水中ポンプを分散配備

浸水対策

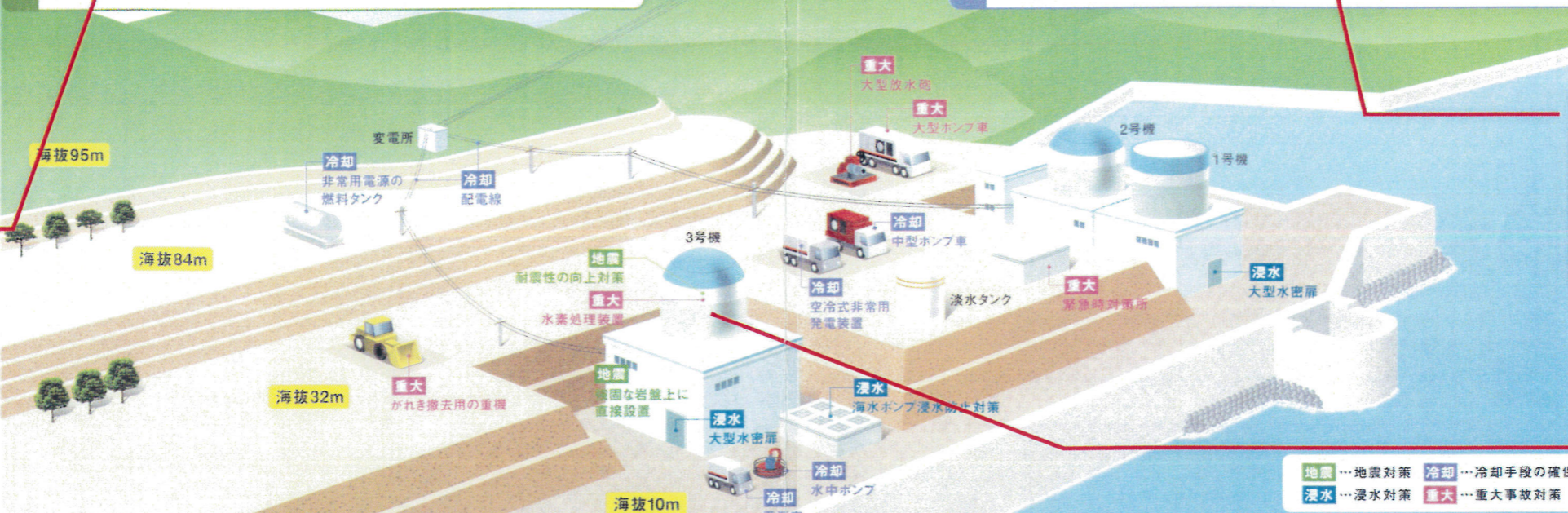


- 伊方発電所での最大の津波高さは、津波が重なり大きくなる場合など厳しい条件でも8.1mと想定しており、海拔10mにある伊方発電所への影響はないと考えています。
- タンクの破損などによる浸水にも備え、水密扉の設置や海水ポンプの浸水防止対策などを行いました。

重大事故対策



- 重大事故時の対応拠点として、高い耐震性を有する緊急時対策所を設置しました。
- 格納容器内の水素爆発を防止するため、水素処理装置を設置しました。
- 万一、原子炉格納容器が破損しても、破損個所に放水し、放射性物質の拡散を抑える大型放水砲や大型ポンプ車を配備しました。



●緑色片岩は片理（へんり）と呼ばれる面状構造を持つ。岩石は片理に沿って板状に割れやすい。

●事故時、ポンプ車での冷却はとてもできない。

●蒸気発生器の逆U字管に水素が溜まると除去できず、原子炉は冷却不能となる。

●緊急時対策所は免震構造になっていないので安全とは言えない。重大事故時に作業員の安全が確保されない

●過酷事故で水素が発生した時、水素処理装置を使うと水素爆発を引き起こす。労働安全衛生法にも反する。

◎問い合わせ 原子力民間規制委員会・いかた
 ◎ 住所 松山中央郵便局私書箱125
 ◎ 電話 080-3161-3102
 ◎ 民間規制委員会 HP
<http://www.tanpoposya.com/民間規制委員会/>

「伊方発電所の安全対策」(四国電力株式会社 配布チラシ 伊方原発全景図より)